

変身ヒロイン悪堕ち報告書3 正義の味方をドスケベ備品奴隸に洗脳改造
ケース・催眠洗脳戦隊ジュエル・スターズ

シーン1
ジュエル・スターズ最終報告書1

国家公認非公開組織のジュエル・スターズに対する最終作戦の準備が終了。概略を説明する。詳細は前回提出した計画書を参照のこと。

ジュエル・スターズ攻略において現段階で予想される最大の障害はジュエル・レッドとジュエル・ホワイトの両名である。

ジュエル・レッド、これまでの報告書で記載した情報の通り、赤壁あかねはジュエル・スターズ創始者の一人でジュエル・スターズのリーダーを務めている。サイコキネシスやパイロキネシスを得意とする超能力者で、戦闘時は装備をナノスキンスーツに変身して戦うスタイルである。ナノスキンスーツは一見、赤を基本とした全身タイツであるが、拳銃程度の威力では傷どころかダメージすら通らないオーバーテクノロジーの仕様である。戦闘力も戦艦級とされているが力と規模が大きすぎるため全力を出しづらいのが弱点である。

ジュエル・ホワイトは本来は外部組織で”聖女”の役割を担う重要人物であるが、激戦区であつた関東地区の支援のため外部協力人員としてジュエル・スターズに派遣されている。所属組織は”教会”で高次元存在、暫定名称”神”とミニケーションでき、3次元の存在にはほぼ不可能な”奇跡”を起こす事が出来る。この”奇跡”を行使されると今までの作戦の成果がすべて無になってしまう可能性があり、最も警戒度が高い人物である。

この2つの戦力に対して元ジュエル・スターズを素体とした怪人2体を追加改造して撃破、可能なら無力化を試みる。

シミュレーションでの作戦の成功率は93%となつてはいるが、正義の味方は予期できない行動で確率外の結果を出すことがいくつかの前例で確認されており、怪人2体が失敗した場合の策も3重に積み立てておく。これらは、新たに洗脳した協力者数名を使う予定である。

なお、上記の計画を怪人2名に伝えたところ完全成功の際の報酬を要求された。こちらは、調整中である。

シーン2

ジユエル・スターズ本部

作戦会議後の風景

レゾード視点

「マップは覚えたな。オプト・ムーンの最後の拠点だが残存戦力はほぼ無し。後は現地に移動して最終確認後、叩くだけだが……各自最後まで気を抜かないようにな」

私はジユエル・スターズ本部の会議室に集まっているメンバーを見渡す。

これから行う、オプト・ムーン壊滅作戦に臨むジユエル・スターズとそれをサポートする司令官、スタッフ達。今回の敵は規模としては小さかつたが、悪の脅威がまた一つ消えるからなのか肩の荷が下りた顔をしているものも多い。

「大丈夫ですよ。あんな雑魚組織、私一人でも十分！」

ジユエル・スターズのメンバーの一人、御船ノノ、コードネームはピンク。私だと街中の戦闘ではビルを3、4個つぶしてしまうので、いつも前線を任せていて少し罪悪感はあるが、頼りになる仲間の一人だ。

「もう、そんなこと言つてこの前、先走り過ぎてピンチになつてたじやないか、あの時はほんと心臓止まるかと思つたんだよ」

ピンクの隣にいるのは、ジユエル・ブルー、八島レン。自らの身体を獣化させて戦うスタイルでジユエル・スターズ立ち上げ時から一緒に戦っている中だ。

初対面の頃はかなり警戒されて大変だったな。ホワイトが頑張つてくれて、ピンクの加入後、しばらくして打ち解けてくれるようになつたのも今ではいい思い出だ。

「そうですよ、勝利の後姿が見えた時が一番警戒しないといけない時です。最後まで気を抜かないよう」

そう言つたのは私の横に座つていたホワイト、栗栖川マリア。“神”に使える信徒で彼女の奇跡には毎回助けられている。本来なら、争いごとに向かない性格なのにジユエル・スターズに参加してもらつてているのは感謝している。

「ピンクさん、姉さんをお願いします」

ホワイトの反対側に座つっていた自分の弟、聰の発言にちょっと驚く。自分で言うのもなんだが出来た弟で、2年前にジユエル・スターズの司令官をやらせてくれとお願いされた時以来だ。状況が状況で仕方なかつたとはいえ、司令官として実務を行うには年齢的にかなり難しかつたのに今まできつちり皆をまとめてきている自慢の弟だ。

「あ、すみません。職場で私用な呼び方をしてしまいました」

「ふふふ、司令官つて思つたよりお姉ちゃん子なんだね。ちょっと意外だけど、そういうの好きですよ」

ピンクがからかうが、今まで精神年齢プラス40歳とか、ショタロボ司令官とか言わ
れていた無表情さが、家族以外の人物がいる場所で和らいだのはいいことだ。ちなみに、
好意的な意味であつたとはいっても私の弟の変な噂を流したスタッフは見かけ次第、10
0枚ほどの始末書の提出を付けておいた。

「え、あ、むう、忘れてください」

「まあ、こういうのも変に力が入らなくていいのだろうか」

会議室は和氣あいあいとした雰囲気となつてしまつて、各々好きなようにしゃべつてい
る。会議は終わつたし、時間も余裕はあるので咎めるほどのことでもないのだが。

「ねえねえ、打ち上げパーティーの準備つて……」

「もう、気が早いでしょ。……だいたいそれは秘密に……」

会議の補助として手伝つてもらつていたスタッフ達の内緒話というにはちょっと大きい
声だな。司令官の方をみると、顔を背けられた。しつていたな……皆の仲が良くなつてい
ると喜ぶべきか、規律はしつかりしようとぐぎを刺すべきか。

「そうだ、よかつたら皆さんのが変身、見せてもらえないですか！」

「だから……あ、わたしもみたことないから、できれば」

「そういや、私達つてあんまりそろつて変身することなかつたよね」

「別行動多かつたし。たまにはいいかも」

「……この後すぐ移動だから問題ないか」

会議室にはメインメンバーが10名ほど、いつもはもう少し事務的な雰囲気なのが…

…

「それじや、私から！」

「私の思いを力に変えて、お願ひ、ペンタジュエル。変身、ジュエル・ピンク」

ピンクの変身する際の決まつたボーズ、セリフは無いが、本人の魔法少女のイメージを
具現化して変身するためアニメの変身のようなやり口となつてゐる。

「鋼鉄も切り裂く獣の右腕、今は無き幻獣の両足、神話に語られた毛皮、2番、5番、9
番解放！ ジュエル・ブルー。行くよ！」

ブルーは本来全身を獣化させる事が出来るが、人ではない化け物として扱われることを
嫌つてほとんど1部位、多くて2部位しか、変身することはなかつたのだが、もうほとんど
トライアフを乗り越えたみたいだな。戦力の増強というよりは仲間の成長として喜ばしい
ことだ。

「”神”よ、あらゆる害悪から守る衣を、すべての不遇を退ける奇跡を、御身より授かつた聖玉に誓います」

ホワイトは聖玉、白い宝玉が内部にある透明な器が付いた錫杖を両手で抱えて祈る。

“ごく一般的な”教会のシスター服だったホワイトの衣装が光に包まれ、”神”的奇跡で編まれた聖衣に変化する。汚れない純白にシンプルなだが莊厳な意匠がこらされたデザインだ。一見、1枚の布で出来た服だが現在地球上のどんな兵器でも傷つけることのできない聖なる衣だ。

最後に私、赤壁あかね、コードネームはジュエル・レッド、ジュエル・スターズのリーダーというか現場指示のような役割を務めている。なお、私の場合、他の3人と違い変身能力は無い。行使できるのは超能力、サイキックなどと呼ばれている単純な不可視の力のみだ。

ただ、いくら山一つ吹き飛ばせる超能力があるとはいえ、身を守る手段は必要なのでジュエル・スターズの技術力を集結して制作した防御機能のあるskinsuitを着用して戦っている。機関銃程度の攻撃なら衝撃をほぼ無効化できるナノマシンで構成された耐衝撃スースは体の80%を覆い、被覆部はもちろん、それ以外の頭部なども99%自動操縦でガードしてくれる代物だ。

難点といえば、ぴっちりと体を覆つたデザインで体のラインがはつきりと出てしまうことと、スースの上から何かを羽織ると機能が低下してしまうことだが、それはもう慣れたしな。

ともかく、私は手のひらに乗るぐらいのルビーに似た装飾のナノskinsuit用变身キットを胸に当てて正義の味方に変身する。

「システム、オールグリーン。ジュエル・レッド専用ナノスキン展開……それでは出撃する」

シーン3

裏切りのジュエル・スターズ ホワイト視点

油断してなかつたわけではありません。でも、今思えば昨日の夜、唐突に”神託”を頂いた後、危険は承知でレッドさんに相談した方がよかつたのでしょうか？

「ボクは大丈夫。遠慮なく……全力で叩いちやつて……」

私達はオプト・ムーンの最後の支部の建物の前で今まで最大の危機を迎えてしまっています。

ブルーさんが以前の戦いで受けた傷に仕込まれていた怪人化ウイルスによって操られてしまつたのです。1週間の念入りな検査で完全に除去できていたはずなのですが相手が一枚上手だったということでしょうか。

卑劣なことに操つたブルーさんとレッドさんで1対1で戦うようにとスクリーンの戦闘員さんからの指示ですが、従わなければ衛星軌道上から日本中に怪人化ウイルスの散布を行ふという脅し付きです。軌道衛星上の話はスタッフの方の調査で全く引っかからなかつたので嘘と思われますが、どちらにしろブルーさんと対峙しなければいけません。うまく無力化できれば時間をかけて以前よりも強力な”神”の”奇跡”でウイルスも洗脳も除去できるはずですが……

「ここは、レッドさんの全力で……ブルーさん含めて一撃でお願いします。その後は必ず何とかします」

「……わかった」

非常かと思われるかもしだれませんが私の奇跡なら限定的な時間回帰で死もなかつたことになります。

”神託”、私の人生で3回。どれも、命に係わる重要なシーンで賜りました。たぶん、昨日の”神託”はこの瞬間のことを示しているのだと思います。

「レッドさん、危ない！」

レッドさんの背中を守るように向き直り、”神器”、聖玉の錫杖を両手で持つて祈ります。”神”の奇跡を起こすのはこの祈りが必要です。日々の祈りのおかげで1瞬、一呼吸で奇跡により私とレッドさんを包む聖域が現れます。

「なつ！？」

「あー、やっぱり、ばれてたかー」

「あぶなかつたです。”神託”で油断しないようにと賜れてなければ対応できませんでした」

「もうつ、そんなのわかるわけないよ。せっかく最高のタイミングでレッドの背後をとれたのに」

「つく、まさかピンクまでとは……だが、ブルーと違つて怪人化ウイルスは受けてなかつたはずだが……」

「ふふふ、そこは秘密。どう……」

ピンクさんが今まで見たことないような表情でしゃべつている途中で、背後の風景ごとオプト・ムーンの建物と同様に消えました。レッドさんの超能力で目に見える範囲をすべて”潰した”のでしょう。

「終わった。後は頼む」

「……はい。大丈夫です。任せてください」

”聖域”は解かず周囲を見渡します。油断は厳禁です。

ただ、心配なのは先ほどのピンクさんがレッドさんに襲い掛からうとした瞬間、あの場面は”聖域”で良かつたのでしょうか……

”神”からの”神”託”では『油断はしてはいけない、躊躇もしてはいけない、相談してもいけない、信頼できるのは一人のみ。常に最善の行動をしなければすべて泥沼の底に墮ちる』

とうさのことで”聖域”を張りましたが、あそこで”神”的敵を完全に滅ぼす”滅威”を行えば……

いえ、”滅威”で滅ぼした存在は”神”的奇跡でも復活させることはできません。ピンクさんは操られているだけ、”聖域”を使うのが最善の行動のはずです。

「あははは、レッドさん、ひどい。いきなりサイコキネシスで避けきれない範囲をつぶすとか、仲間にする行動じやないですよね？」

「つく、長引かせないように全力で行つたのだが……」

レッドさんの表情が歪んでいます。私の奇跡ならどんな洗脳も元に戻せますが、気づかなければ意味がありません。

あまりにも想定外です。そこまで仲間を疑うことは……

「それじゃあ、改めて自己紹介させてもらうね」

前後左右4方向からピンクさんの声が響きます。いつものピンクさんの調子も相まって悪い冗談のように聞こえます。

「私、オプト・ムーンの洗脳怪人、ブラック・フォビュラスでーす。ジュエル・スターズはちょっと前に辞めちゃってたけど黙つてて後免ね？」

「そこか！」

”聖域”の外、更地になつた場所に一瞬人影が見えましたが全て10メートルはある炎が燃やし尽くします。

「残念、ハズレですよー。それは、私の能力で作った植物の分身。ふふ、レッドさん冷静に冷静に」

「まずい、いつたん退却する！」

「はい！」

合図とともにレッドさんの超能力で私の”聖域”と共に地面が浮かび始めます。

「あ、逃げられるとでも……」

まがまがしい紫色の3メートルはある植物？の葉っぱが四方から現れて地面を縫い付けようとしてきますが……

「この程度、問題ありません！」

「このまま引きちぎって……なつ、つぐ」

「レッドさん！？」

”聖域”を維持したまま振り向くと、レッドさんの首元に植物の薦が巻き付いて……薦 자체はちぎり取れたようですが、薦の裏には細い金属の首輪。どういうものかわかりませんが、このタイミングで無視できるもののはずがありません。一刻も早く外さないと。

私がお手伝いするには一度”聖域”を解かないといけませんが……

「だめだ、”聖域”は解くな！ ピンクの思うつぼだ……ぐう

「しかし！」

「命に係わるダメージではない……が、やられた、私の超能力を封じる装置か」

「こそ、シンプルなデザインでおしゃれでしょ？」

「……私の力では無理そうだ。だが、そつともホワイトの”聖域”を突破はできまい」

出発前はみんなに和んだ雰囲気でしたのに……会議室で話していた調子と変わらない様子で話しているピンクさんを見て、とても悲しいです。

「え、誰か一人忘れてないかなあ？」

今まで聞いたことのない、とてもいやらしい響きでピンクさんの声を聞いた次の瞬間で
した。

「うべあつ！？」

あつ、と思つたときはすでに手遅れで、地面が上……そんな“聖域”ごと、吹き飛ばされてゐるのですか！？

意識が持ったのはそこまでで、最後に見えたのは更地になつたオプト・ムーンの跡地に立つてゐる大きなオオカミのような黒い影でした。

シーン4

ジュエル・スターズ最終報告書2

ジュエル・ホワイトの予想外の対応があつたが現場判断で対処して作戦は成功。ジュエル・スターズ残党の2人をほぼ無傷で捕縛することに成功した。捕縛した2人は新拠点の地下に移送中である。

なお、ブラック・フォビュラスからこの結果の報酬を求められたので、ジュエル・レッド、ジュエル・ホワイトの無力化を一任。期限は半日、本日の18:00までとした。常時監視はついているので問題があれば即時対処する予定である。

同敷地内で並行して洗脳した人員を集めて最終的な全体の調整の作業を実施中。

現在の作業は深夜0時の完了予定。それにてジュエル・スターズに対する作戦は一度すべてクローズとして、関東支部は次のステップに移る。